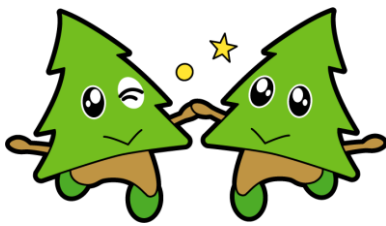


あきたスギッチファンド通信



No. 5 2011年1月25日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

E-mail : madoguchi@sugicchi-fund.jp

ファンドの状況

(1月20日現在平成22年度収入済額)

寄付金合計	2,637,000円
会費合計	326,000円
ファンド総額	<u>2,963,000円</u>

秋田ゾンタクラブからのご寄付

秋田ゾンタクラブ(針生峰子会長)は、女性の地位向上、社会奉仕、国際理解を深めることによって世界の平和に貢献することを目的に活動する国際奉仕団体です。今回ニューイヤーチャリティパーティを行い、その収益から女性の自立支援分野を指定して10万円がファンドに寄付されました。1月12日秋田ビューホテルで開催されたパーティの席上で、会長から直接菅原理事長に寄付金が手渡されました。

いなふくせんべい

“いなふくせんべい”を製造販売する秋田いなふく米菓は、製造過程で割れてしまったせんべいを袋に詰めて格安で販売、その代金の一部をスギッチファンドに寄付するという仕組みを作ってスギッチファンドを応援しています。せんべいを入れる袋も、商品の変更のため使われなくなったものにスギッチのマークをはって利用するというエコなものです。

スギッチファンドではいろいろなイベントでせんべいを販売し、基金の増額に努めています。現在せんべいの販売を通じた寄付は約7万5千円に上ります。



秋田県大潟村産もち米 たつこもち100%使用

最近“新しい公共”という言葉をいろいろなところで見聞きます。

これまで「官」が支えてきた教育や子育て、防犯や防災、医療や福祉などの公共サービスに、地域のNPO法人や市民、企業などが積極的に参加して、多様な主体がそれぞれの立場で支え合う仕組みを構築しようとするものです。

新しい公共の担い手として期待される市民活動団体や地域活動団体—あきたスギッチファンドはそのような団体の活動を財政的に支援し、団体の基盤を強化しようとするもので、ファンドの趣旨が徐々に理解されていると感じています。

ファンドの事業は、資金を集めることと基金から助成することの二つから成り立っており、両者のバランスが大切です。

皆様からさらなるご支援を得て、スギッチファンドの運営に努めて参りたいと考えております。

メモリー ~ Memory

最近、葬儀へ寄せられた香典に対する「香典返し」の代わりに、社会貢献活動などに寄付されるご遺族が増えているようです。

このたび、秋田市の上裕子様から、ご主人の故見上健一様のご不幸に寄せられた厚志の一部を、スギッチファンドにご寄付頂きました。

故人は生前野球選手、指導者として活躍され、スポーツに情熱を注いでこられたということから、スポーツ振興に役立てて欲しいと希望されております。



社会貢献型自動販売機

前回にも紹介しましたが、社会貢献型自動販売機が広がりを見せています。

みちのくコカコーラボトリング様のスギッチファンド応援自動販売機は現在25台、今年度の寄付金額は約50万円に上ります。

自殺予防の分野を指定して13台の自動販売機を設置する秋田ダイドー様の今年度の寄付金額は、約11万7千円になります。

この他にも伊藤園様などいくつかの自動販売機からご支援を頂いており、社会貢献型自動販売機はスギッチファンドの基金を支える大きな柱となっております。



スギッチ募金活動

1月23日（日）、ジャスコ御所野店のご協力を得て、スギッチファンド募金キャンペーンを行いました。以前ファンドから助成を受けた“あきたまるまるマルシェ”、“あきたファミリーハウス準備会”の皆さん、今回助成が決定した“夢、歌おう会”の皆さんも手伝ってくれました。スギッチ、なまはげの参加もあって、賑やかなキャンペーンとなりました。



第4回助成先決定（2010年度第2回）

第4回あきたスギッチファンド助成事業

2010年度2回目の助成事業は、皆様から頂いたご寄付を原資として、本ファンドの10万円コース5件、30万円コース3件と、環境保全活動を指定して10万円コース1件、総額150万円を、11月15日から募集しました。

12月15日の締切までに、10万円コースに12件、30万円コースに8件、分野指定に2件の応募がありました。

さっそく選考委員会に年末までに第一次書類審査を終えていただき、それをうけて1月15日公開審査会と最終選考委員会を開催しました。選考委員会はいろいろ意見を重ねながらも順調に進み、予定通り助成先を決定し発表することができました。

今回助成を受ける事業の実施期間は、1月20日から7月31日までとなります。

助成先一覧

本ファンド10万円コース

応募総数12件の中から5件を採択しました。

団体名	事業名、事業概要
ちっちゃいもの倶楽部	草の根国際交流 太田の火祭り で紙風船上げ 大仙市太田の火祭りでは天筆とともに行われる紙風船上げは、西木と同じく昔から行われている伝統行事である。地域の外国出身者らとともに紙風船を作り、太田の火祭りでは紙風船上げを行い、参加者の交流を深め、共に過ごしやすい地域づくりを目指す。
内川再生の会	山菜採りツアーと沢田等自然体感事業 周囲が山々に囲まれた森閑とした林道を進むこと約15キロ、そんな五城目町内川は手つかずの自然が残り、山菜の宝庫でもある。都会の喧騒から遮断された内川で、山菜採りツアーと山菜料理教室を開催し、自然を満喫してもらう。自然の魅力をアピールし、観光資源としてPRする。
精神障がい者サポート「マイペース」	映画「精神」秋田上映会 映画「精神」は、精神病をもつ人々のありのままの姿を映し出すことによって、観客に精神病に対する考え方を問うドキュメンタリーである。この映画上映会を通して、精神病に対する誤解や偏見をなくし、地域と共に生きるためにはどうすべきかをテーマに、講演・ワークショップを開催する。
NPO法人 ゆめ協働隊	廃油リサイクルプロジェクト「エコで灯そう手作りロウソク」 家庭内等で普通に廃棄される食用油。この廃油を再利用することで、家庭内で身近なエコロジーの意識を持ってもらうことを目的に、廃油リサイクルプロジェクト第一弾として、ロウソクを作り、横手の“かまくら”で点灯するエコイベントを開催する。
夢、歌おう会	宮沢勝之コンサート ～ありのままに～ 障がい者や家族の思い、命の大切さ、平和の大切さをメッセージに託す宮沢勝之コンサートは、多くの人に感動を与えている。今回は、他団体、秋田大学手話サークル等と交流しながら開催し、明日への頑張りにつなげていく。

分野指定ファンド 環境保全分野 10万円コース

応募2件の中から1件を採択しました。

団体名	事業名、事業概要
NPO法人 EM おおだて	EMインストラクターの養成及び講座 有用微生物群（EM）を活用し、地球温暖化防止と生物多様性の維持、改善ができることを学び実施する人材を育成することが急務となっており、そのためのインストラクター養成講座を開設する。それと同時に、水域環境浄化、廃油石鹼作り、米糠ボカシ作り、家庭ごみ堆肥づくり、学校プール清掃などの事業を継続して広げていく。

本ファンド30万円コース

応募総数8件の中から書類審査で6件を選出、公開審査を経て3件に決定しました。

団体名	事業名、事業概要
NPO法人 ふじさと元気塾	民芸品の開発と人材のネットワーク化の推進 藤里町には、世界自然遺産白神山地があるが、観光客は減少傾向にある。民芸品などの特産品作り、里山の棚田の田植えと保全、ホテルのガイドマップの作成などにより、観光地としての魅力を高める。この事業を通して、町内の人材のネットワーク化を推進する。
秋田・潟上若者会議	秋田スクールガールズコレクション 県主催の「若者会議」に参加した26名が、町に賑わいを作りたいという思いで、秋田市内の各高等学校、大学、専門学校の学生にモデルになってもらい、ファッションショーを開催する。自分たちの自発的思いを多くの人に共感してもらおうと共に、秋田駅周辺の集客につなげる。
子育てサポーターの会 ミントと いっしょ	「待つ」から「届ける」子育て経験者がよりそう家庭訪問型子育て支援の実現に向けて 専業主婦で子育てをする過程でストレスをため、家庭にこもりがちになり、地域から置き去りにされていると悩む親へのサポートが必要となっている。「待つ」から「届ける」訪問型子育て支援「ホームスタート」事業を実施するために、ホームビジターを養成する講座を開催する。また、外出へのきっかけづくり、拠点しゃべり場@ほっとカフェを開設し、子育てを支援する。



公開審査会の様子



あきたスギッチファンドQ & A

Q：スギッチファンドの助成事業の募集や活動の情報はどこで入手できますか。

A：スギッチファンドの事務局は遊学舎にありますので、遊学舎に問い合わせただけであれば対応します。また、あきたスギッチファンドのホームページに随時情報を掲載しますので、アクセスして下さい。
 あきたスギッチファンド Tel 018-839-8941 Fax 018-829-5803
 E-mail:madoguchi@sugicchi-fund.jp
 ホームページ URL:www.akita-kenmin.jp/akita-npo-fund/